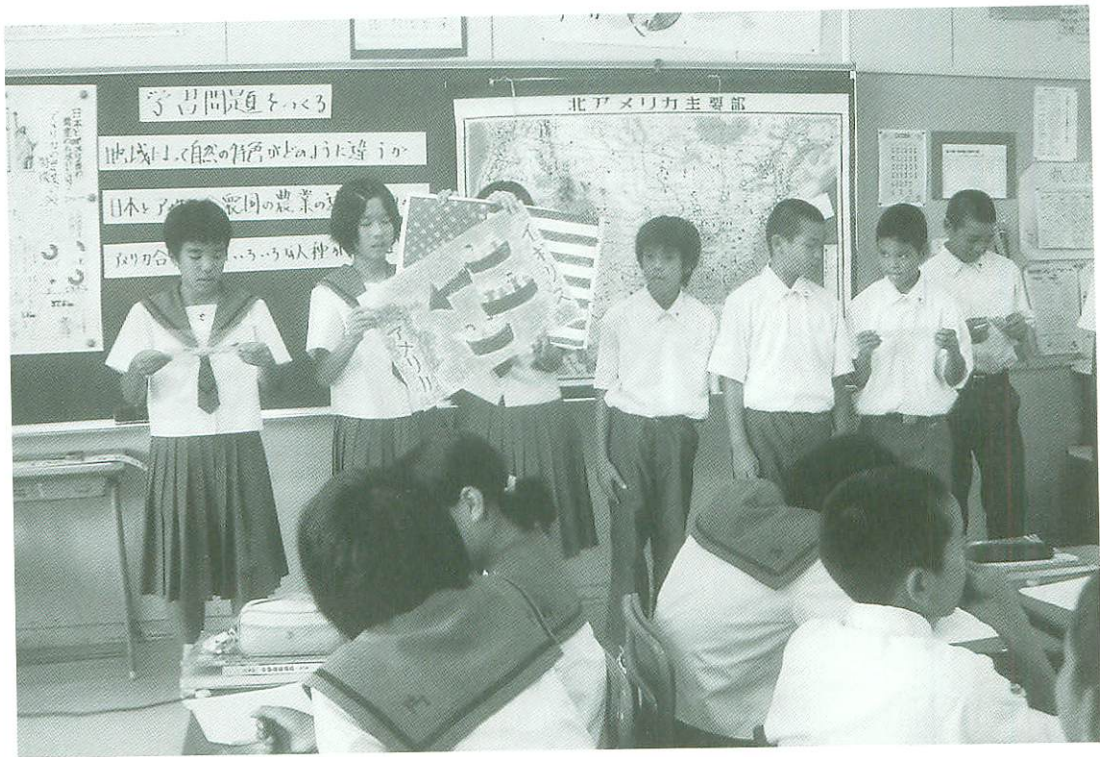


東 風

第14号

平成13 年(2001) 9 月



南部広域行政組合
島尻教育研究所



学校の「顔」づくり

島尻教育研究所長 比 嘉 恒 雄

今回、告示された学習指導要領は、第1回の告示から、6回目を迎え21世紀に向けた、学校教育の指針である。

この改訂で、特に強調されていることは、第1章総則の1の次の個所で、「……目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で……」の部分である。同じ趣旨のことは、「教育課程の基準の改善の基本方向について（中間まとめ）」の中にも記述されている。

同じ内容が、二度に亘って強調されていることは、学校が主体性を一層発揮し、自校の「顔」が見える、特色ある教育課程の編成、実施、評価、即ち教育課程経営が強く求められていることである。

今回の教育改革のめざしていることを的確に受けとめるには、古い資料であるが、文部省の「小学校教育課程一般編指導資料Ⅱ」（昭和57年）～地域の実態に即した教育課程～は、きわめてすぐれた資料である。

この資料によれば、教育課程の編成、実施は「指導の重点」と「学校（学年・学級）の経営」の二つの側面からの統合であると説明している。

しかし、学校現場における動きは資料より程遠く、まだまだ多くの課題を抱えているのが実態である。最近の全国的な調査によると、「経営方針の浸透」と「目標達成へのアプローチの確立」については、管理職と教員とで大きな差がでている。管理職は、「経営方針の浸透」に比べて「目標達成アプローチの確立」に切実感が弱く、教員はその逆となっている。つまり管理職は、「指導の重点」の具体化については、ともすると教員に任せる傾向があり、反対に教員は「学校（学年、学級経営）」を通しての目標達成への意識が希薄になっている。

改訂の柱の一つである「学校の教育目標達成のための教育課程の編成・実施」を基本にしながら、学校の「顔」づくりのために、実態や課題をどう処理していくかは、きわめて大切なことである。教育課程の編成・実施の過程で改訂の趣旨を生かすため「学校の教育目標、経営方針、指導の重点」の見通しは、緊急な課題であるので、そのことについては、一緒に考えてみたいと思う。

学校の教育目標は、児童・生徒につけたい力であり、学校のすべての教育活動は、この目標の具体化を図るために営まなければならない。したがってあらゆる教育活動において、児童・生徒の姿が具体化されることが望ましい。

しかし、現状では「普段、教育活動にあまり教育目標を意識しなかったり」「項目の教育活動が具体化とどう関連しているかよく知らなかったり」等、教育目標をめぐる数多くの問題点を抱えている。

この課題を克服するには、学校全体の教育活動の成果があがるように目標の重点化をはかり、協働体制で実践し、曖昧さを解消する工夫をしなければならない。その曖昧さが数多くの－（マイナス）要因になっている。教員の目標達成意識を弱めたり、学年、学級の取り組みの不一致を招いたり、努力の方向が拡散する等があって、学校全体としての教育の成果が十分あがらない状況を生んでいると思う。

重点化は学校外からも大切な視点であるので、目標の重点化を考えてみたい。

2002年の完全学校週5日制の実施を目の前に控えて、地域社会とのつながりを密接に図っていく大切さを考えることが今求められている。そのためには、学校がすべきこと、学校だからできるもの、21世紀をたくましく生きる児童・生徒を育てるために、どの部分を学校が担い、どの部分を地域や社会に委ねるかを幅広い議論を重ねながら、それを整理すべき時期にきていると思う。

連携の効果をあげるために児童・生徒の実態や今日的な教育課題を正しくとらえて、学校の役割と責任が明確で、家庭や地域社会との連携が具体的に整理されているかを中心に再検討の必要があると思う。

学校「顔」づくりに特色ある教育活動もさることながら、それをひき出す経営方針ももう一つの顔である。経営方針をめぐる問題点とその方針の構造について考えてみたい。

目標達成する時には、数多くの方法が考えられるが、この方法でいこうと明示するのが方針である。このことから方針は、磁石の針からきている。道に迷った時に、正しい方向を指示してくれるのが磁石の針である。方針は、リーダーが自信を持って指し示す方向である。

しかし、学校経営においては、社会の急激な変化や、教育改革等の関係で、学校への数多くの要求は、結果的に年度の重点目標設定の曖昧さの原因の一つにあげられている。

それとは別に、学校の経営方針の見直しは、中長期の展望がないままに行なわれたり、一方的な伝達であったりすると、経営の具体策や指導の重点は、そのまま引き継がれ、具体的な取り組みが一向に変らない状況が起こることもある。

そこで、経営方針を重点化していく時、まず、自校の教育課題や経営課題を明確にすることが求められる。明確にされた項目に軽重をつけて、経営方針を精選することは、組織の活性化にとって不可欠のことである。

教育課程の編成・実施について、考えるたびに空しくなる場合が多い。それは教育課程の編成・実施そのものは、学校の教育目標達成や各々の学校の日々の教育実践の根幹にふれるものでありながら地域全体として十分なる体制を整えることができていないのが現状である。

そこで、今までを振り返り、指導の重点の見直しと指導の一貫性について考えてみたい。

学習指導のレベルまで、学校の指導の重点が見えなかったり、学校の「教育目標達成のための教育課程の編成・実施」ということが空文化してしまって「〇〇〇年間指導計画」がその代役を務めているのが、多くの学校の現状ではないかと思う。

このような実態の大きな原因は、学校課題に対する教職員の危機感や経営方針等にかかわる認識を十分に醸成するとりくみ不足は反省しなければならない。

そのために、指導の重点の具体化を図る場では、教職員の多忙感が優先し、恣意的な選択が行なわれ、そこには、もう創意・工夫は生まれない。その結果、各教科等における努力点はまちまちになり指導の重点の一貫性が保てなくなってしまう。

ここで、指導の重点についての見直しを次のような指導重点で行うことは大切である。

- ① 重点目標を具現化しているか。
- ② 重点が精選されているか。
- ③ 各教科等の具体策に一貫性があるか。

各教科等における指導の重点は、学校全体として重点目標を具現化していくものであることが肝要である。

そこで、指導の重点を見直す時には、学校の企画委員会（運営委員会）等を中心に、学校の基本的な方針を精選し、学校全体としての取り組むべき方向をより明確にした上で、各教科等の部会における指導の重点の具体策を設定していきたい。

その結果を指導の重点になりうるかを中心に検討し、教科間の整合性も指導していくには、教務主任の役割は大きいものがある。

「児童・生徒、地域の実態」に応じた、学校の「顔」が見える教育課程の編成は、裁量権の拡大された校長への期待はきわめて大きいものがある。日本の近代化の過程で沖縄の精神的な主体性を生涯の研究テーマとして追求した「沖縄学の父」伊波普猷の次の琉歌で本稿のしめにしたい。

深く掘れ
 ^{など}
 己の胸中の泉
余所たよて
 水や吸まぬごとに

平成13年度 前期 教育研究修了者及びテーマ一覧

期	No.	氏 名	勤 務 校	教科・領域	研 究 テ ー マ
前 期	1	国 吉 和 美	東風平町立 白川幼稚園	幼稚園教育	一人一人のよさや可能性を生かす援助の工夫 －その子なりの表現を大切に「夏の遊びを楽しむ」活動を通して－
	2	上 原 綾 子	南風原町立 津嘉山幼稚園	幼稚園教育	心豊かな幼児の育成 －郷土の民話やわらべうたを通して－
	3	末 次 悦 子	糸満市立 糸満南小学校	国 語 科	「読むこと」の基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫 －声に出して読む活動を中心にして－
	4	真玉橋 初 子	東風平町立 白川小学校	特 殊 教 育	よりよく生きるための生活単元学習の工夫 －読書活動における個別指導を通して－
	5	當 山 園 代	知念村立 知念小学校	生 活 科	身近な人々や自然に進んでかかわる学習指導の工夫 －海たんけんを通して－
	6	儀 間 盛 伸	南風原町立 南星中学校	社 会 科	社会科における主体的に学ぶ意欲を育む学習指導の工夫 －問題解決的な学習における表現活動を通して－
	7	新 崎 順 明	知念村立 知念中学校	教 育 相 談	生徒の自己指導力を高める教育相談 －一人一人の内面理解を通して－

平成13年度 指導講師及び担当教科

前期（4月～9月）

後期（10月～3月）

氏 名	勤 務 校	教 科 ・ 領 域	氏 名	勤 務 校	教 科 ・ 領 域
名嘉元 美佐子	幼稚園教育	豊 見 城 村 立 座安幼稚園 教頭	金 城 恵 子	幼稚園教育	東 風 平 町 立 白 川 幼 稚 園 教 頭
上 原 須美子	幼稚園教育	糸 満 市 立 西崎幼稚園 前教頭	宮 城 貞 子	生 活 科	南 風 原 町 立 津嘉山小学校 校長
上 原 弘 子	国 語 科	南 風 原 町 立 翔南小学校 校長	竹 内 典 子	生 活 科	玉 城 村 立 船越小学校 教頭
川 平 敏 子	特 殊 教 育	糸 満 市 立 高嶺小学校 教頭	棚 田 彰 夫	社 会 科	南 風 原 町 立 南風原小学校 教諭
糸 数 ハツ子	生 活 科	玉 城 村 立 玉城小学校 教頭	辺土名 清 子	総合的な学習	知 念 村 立 知念小学校 校長
安谷屋 守 松	社 会 科	大 里 村 立 大里中学校 教頭	大 城 盛 幸	数 学 科	県教育庁島尻教育 事務所 指導主事
山 城 直 三	教 育 相 談	豊 見 城 村 立 豊見城小学校 校長	池 村 康 男	数 学 科	与 那 原 町 立 与那原中学校 教諭

平成13年度 後期 入所予定者及びテーマ一覧

期	No.	氏 名	勤 務 校	教 科 等	研 究 テ ー マ
後 期	1	長 嶺 初 美	糸満市立 高嶺幼稚園	幼稚園教育	幼稚園において幼児の興味や欲求に応じ、幼児とともに充実した生活を送り出すためには環境をどのように構成すればよいか。
	2	金 城 淳 子	与那原町立 与那原東小学校	生 活 科	子どもの思いや願いを生かした活動の工夫
	3	嶺 井 のぞみ	玉城村立 百名小学校	生 活 科	児童が生き生きと活動する生活科の授業づくりの工夫 －栽培活動を通して－
	4	與那嶺 正 子	与那原町立 与那原小学校	社 会 科	社会科の授業と「総合的な学習の時間」との関連について
	5	上 原 康 秀	糸満市立 潮平小学校	総合的な学習	総合的な学習の時間における教師の支援の在り方について
	6	神 里 美智子	糸満市立 糸満中学校	数 学 科	(指定テーマ) 基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫
	7	唐 真 清	豊見城村立 豊見城中学校	数 学 科	コンピュータを取り入れたわかりやすい授業



共に学びながら、自分を振り返る

検証授業を通して

東風平町立白川幼稚園教諭 国 吉 和 美

研究所での新しい生活に期待をもちながら、それぞれの「課題テーマ」という大きな目標をもってスタートした4月。研究所生活が始まって、3週間目には、研究計画レポートの提出があり、それぞれのテーマをもって理論研究に取り組んできました。検証授業をするにあたって、まず、私が疑問に思ったことは、「検証授業とは何?」「検証授業で何を明らかにするの?」ということでした。その小さな疑問を明らかにするために比嘉恒雄所長、上原幸得主任指導主事や宮城末義指導主事の指導や助言を受けながら「検証授業の目的」から考える事にしました。「教師は授業で勝負する」ということがよく言われていますが、果たして自分は「よい保育を展開していくためにどれだけの努力をしているのだろう」と反省しながら、授業の実践にあたっては、「教材観」「幼児観」「指導観」を子供の実態にあわせ、きめ細かく分析することになりました。その中で感じたことは「活動」「単元」のもつ教育的意義ということがいかに大切であるかということでした。

私たち前期の教育研究員は、「学級の子」を知らないまま研究が始まるので、前半は「子供の実態」をつかむということに重点をおきながら、授業を展開してきました。検証授業の日に向けての試行錯誤の日々。授業を終えて研究所にもどってくる先生方の顔をみると「今日の授業はよかったんだな」「あ、今日は・・・」と思えるような顔つきでした。1時間1時間にかける先生方の思いが伝わり、自分のことのように感じたものです。一人一人の子供に対するしっかりとした理解が授業でいかに大切であるかということがわかりました。

検証授業の日は、授業者の「人に見られる」という気持ちよりも「よーし頑張るぞ」という熱い思いが教室全体に伝わりました。「ねらいや願い」にもとづいて、授業を展開していく中で、それぞれの年齢・学年における個性あふれる授業展開の工夫をし、指導観にも広がりや深まりがみられました。1時間の中にかける授業への情熱に関心したものです。授業者以外の研究員にも、一人一人の役割があり、「教師の行動・発言」「抽出児の行動、発言」「学級全体の様子」「ビデオを取る」という視点にそって観察を行いました。授業をしている時はせわしくて、見えないことが、第三者として「子供を見る」ことで、改めて「子供の言動」や「表情」までを細かく記録することにより、子供の発達をみることができました。授業の中で、教師の援助・支援に対して、様々な反応をしていることがわかり、いかに教師がその時々で場面に対応する援助のあり方が大切であるかということがわかりました。

授業後は、反省会をもち、授業者の反省や、それぞれの視点からの質疑が活発になされ、そのことで、自分で気がつかなかった問題点に気づき、改善すべきことがわかりました。また新たに今後の課題として発展的に考えることもできました。みんなで一つのことを討議するということは、様々な角度からみることができるということで大変有意義なものでした。幼・小・中の先生方がお互いの「よさ」を知り合うということの連携にもつながりました。そして、いつも、最後に「研究の内容や課題について」きめ細かく指導して下さり、自分の研究の方向性を示して下さいた所長、両指導主事の話は、自分の考えをまとめることにつながりほっとしたものです。

- ・パネルシアターを使って、じっくり民話を聞かせ興味をもたせていた綾子先生
 - ・「生活科」で、「ポスターセッションでの発表」で、子供の思いや願いを大切にしていた園代先生
 - ・様子を表す言葉を声に出して読んだり動作化することで言葉に着目させる工夫をしていた悦子先生
 - ・一人一人の子供との信頼関係が深く結ばれていて、教師としての温かい姿勢を感じた初子先生
 - ・いろいろな表現活動で子供も先生も共に楽しみながら発表し、話をよく聞いていた生徒が印象的な盛伸先生
 - ・「教育相談」のあり方の具体的な方向性を示し、内面理解をして生徒を大切にしていた順明先生
- 検証授業、事例研究をすることで、具体的な研究の視点が明らかになりました。

研修は終わりますが、これから現場にもどってからが、研修を生かす新しいスタートだという気持ちをもって、日々努力していきたいと思えます。

研修を進めるにあたり、ご指導とご助言を賜りました関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。



語りあう中で学んだこと

—「大切な話」「三分間スピーチ」—

南風原町立津嘉山幼稚園教諭 上原綾子

4月、いつもならあわただしく新学期の準備をしているのですが、今年は、今までの子ども達との生活から一転し、机に向かって緊張感の中でスタートしました。

自己研修を進めながら、講話・所外研修・所内研修・パソコン研修・クラブ（三線）・書道など学校現場では体験できない研修も多くありました。その数多くある研修のなかで水曜日と金曜日のミーティングに行なわれる「大切な話」と「三分間スピーチ」では互いの意見を交換をするなかで、いろいろな角度から物事を考えることを学びました。はじめは何をどのように話を進めたらいいのかわからず、戸惑いが多かったが回を重ねるたびに、比嘉恒雄所長をはじめ・上原幸得主任指導主事・宮城末義指導主事・さらには教育研究員一人一人の意見をきくことで、「なるほど」とうなずき、先生方の素晴らしいところを再発見する機会となりました。

＜大切な話＞

外山滋比古著書の「学校で出来ること出来ないこと」の小冊子の93項目の中から題材を見つけ、選択理由や意見や感想を述べ合いました。どの項目も親として、教師として自分を振りかえる機会となりました。

7人の研究員が輪番制で提案者となり「ころんで育つ」「給食のマナー」「車間距離」「学級懇談会」「さびしい思い」……等について話しあうなかで、幼稚園・小学校・中学校の教師の立場や、親としてのそれぞれの生き方や受けとめ方の違いを学びました。そして指導体験豊富な比嘉所長や上原主任指導主事・宮城指導主事からは、経験に基づいた話を伺うことにより、物事を考える奥深さについて学ぶことができました。

＜三分間スピーチ＞

研究員一人一人が日頃思っていることや体験したこと、また趣味などを題材として三分間にまとめて話を進めるのですが、「話の骨組みを考え相手にわかるように話をする」となると、題材を考え、三分間にまとめることにひと苦労をしました。しかし、回を重ねる度に話の進め方や題材のまとめ方に目を向けられるようになり、ドキドキしながらも「三分間スピーチ」を楽しみにするようになりました。

題材になったのは「模合いについて」「少しだけやさしい心」「色」「私の中のスーパースター」「子育てについて」等と個性にあふれた人柄を感じさせる内容でした。この「三分間スピーチ」も「大切な話」と同じく7人の研究員が輪番制で提案者となり自分の考えをそれぞれ述べていき宮城指導主事・上原主任指導主事・最後に比嘉所長の話で締めくくられ、今までにない有意義なひと時となりました。

特に「大切な話」と「三分間スピーチ」では、人の話を聞き、短い時間で自分の意見を相手にわかるようにまとめ、話しをすることを学びました。この経験をこれからの学校現場での実践の中で役立てていきたいと思います。

研究所生活は、厳しい中にも人と人とのつながりが感じられ、充実した日々を楽しく過ごすことができました。園を離れ研究所のみなさんと出会い、研修を深めることで、自分を見つめ直すことができ、人間として教師として親として大きく成長したように思います。このような研修の機会を与えてくださった関係各位の方々に御礼を申し上げます。

また研修期間中、ご指導いただきました比嘉所長、上原主任指導主事、宮城指導主事、指導講師の上原須美子先生には重ねてお礼申し上げます。

研究所で培ったことを、これからの実践に生かし、子ども達に還元できるよう頑張っていきたいと思います。



一 期 一 会

ー所内研修から学んだことー

糸満市立糸満南小学校教諭 末 次 悦 子

六ヶ月前に初めて出会った仲間達なのに、まるで昔からの知り合いみたいに冗談を交し合い、笑い声の絶えない研究室。困ったときに素直な気持ちで頼み事ができるほどの温かい人柄の仲間達とは、研修の機会を与えられたことで出会う事ができました。また、研究所ではその他にも多くの出会いがあり学びがありました。

比嘉恒雄所長と上原幸得主任指導主事、宮城末義指導主事には、テーマ研究の指導だけでなく、所内研修でも多くのことを学ばせていただきました。

比嘉所長には、琉球・沖縄の歴史や文化について講話をしていただきました。「明日への指針となる歴史観を身につけるために地域の歴史を学ぶことは欠かせない。」という言葉の重みが、朝のミーティングの中で回を重ねるたびに強く感じられるようになりました。比嘉所長の話を伺うたびに、知らなかった事実がどんどん明らかにされ、歴史と自分の暮らしが繋がってくる面白さを感じました。

上原主任指導主事は、主に教育法規と研究の方法について講話をしてくださいました。教職員として知っておかなければならない事を改めて学ぶことができ、教師としての立場を再認識しました。また、クラブでも三線の手ほどきをしていただき、三線の音の響きや、琉球民謡の調べの心地よさを味わうことができました。

また、宮城指導主事には、研究資料の収集の仕方から始まって、パソコンを使っの検索やパワーポイントの作成など研究全般に亘って指導していただきました。講話の内容とともに宮城主事の教育への熱い思いが伝わり、「学校現場に戻っても仲間とともに頑張りたい！」と実践への想いがふくらんできました。

その他に、野原清志応用教育研究所研修主事の経験に裏打ちされた教育心理検査についての講話や玉寄長市局長の「プロであるという意識をもって組織での戦力になってほしい。」という行政に携わる者としての情熱あふれる貴重なお話を聞く機会も得られました。

そして、七夕書道では、お手本を書いてもらうことから筆の運び方まで、一日がかりで知花賢正総務課長に指導していただきました。「書を楽しんでください。」と温かい言葉をかけながら、丁寧に根気強く指導していただき感謝の念に耐えません。

研究所での研修は、これまでの自分自身を振りかえらせ、多くの課題と素晴らしい出会いを与えてくれました。自分の弱さを知り、周りの人たちの温かさに触れ、教師として一人の人間として学びの入り口に立った気がします。ここに来なければ得られなかったすべての出会いと出来事に感謝し、これからの教育実践に生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、比嘉所長はじめ上原主任指導主事、宮城指導主事、指導講師の上原弘子先生、また、貴重な研修の機会を与えてくださいました関係者の方々に心から感謝いたします。ありがとうございました。



大 切 な 節 目

—入所式、計画・中間・報告書検討会—

東風平町立白川小学校教諭 真玉橋 初子

緊張した入所式（4月3日）

研究員7名は、朝から緊張していました。研究所で初めて顔を合わせたばかりで名前もまだ正確に覚えていないが、研究する教科、領域は違っても教師としての資質や力量を高めたいという気持ちは同じでした。

入所式では、久しぶりに緊張感を味わいました。教育長をはじめ、大勢の関係機関の先生方に迎えられて、厳粛な中で行われたのでさらに緊張しましたが、これから半年間の研究所の生活を有意義なものにしたいと気持ちを新たにしました。

また式では、南部広域行政組合教育委員会の島袋朝徳教育長、比嘉恒雄所長より激励の言葉を頂いて身の引き締まる思いでした。学校現場の忙しい生活を離れ自分を見直す機会にし、仲間と協力し落ち着いて研修に取り組みたいと思いました。

6ヶ月間の研修の中で、研究計画検討会、中間検討会、研究報告所検討会と大きな節目があります。所長、両指導主事、教育研究員を交えての話し合いです。

見通しがもてた研修計画検討会（4月23日）

検討会に向けて資料収集をしテーマ、テーマ設定理由、研究仮説、研究内容を考えまとめたのだが、話し合いの中で所長の「6ヶ月でできること。間口は狭く、研究は深く」の指導、両主事の適切な指導を受け、見直すことになりました。本を読み何度も書き直しやっとまとめた内容だったが、まだ十分に自分のものになってない、絞り込んでない等、課題がたくさんありましたが研究に対する方向性が見えてきて研究員一同感謝の気持ちでいっぱいでした。

理論と実践を結びつけた中間検討会（7月16日）

中間検討会に向けて、指導講師との検討会、検証授業があり研究室は緊張も増してきたが、お互いに支えあい、はげまし合って研究することができました。15分の時間で説明するのだがどうしても時間がオーバーしてしまい、時間内に焦点化して話す難しさを痛感しました。

所長の「子ども達の実態のおさえかたが重要なポイントになること、テーマとの整合性、徹底してこだわること、資料をアレンジする力」の大切さの指導を受けました。

また、両主事からも細かい指導を受け多くのことを学び、研究をさらに深めることになりました。

報告書のまとめ方を学んだ報告書検討会（8月8日）

中間検討会の反省を生かし、さらに指導講師の指導、助言を受け研究テーマから研究の成果・今後の課題を10ページにまとめて報告しました。そこまでくるのにパソコンの操作をお互いに教え合ったり、新しい操作方法を学びながら取り組んできました。とても充実した期間でした。15分で話をしますが、どの研究員も話す内容は前回より絞られて研究の取り組みの様子がよくわかりました。

両主事からは、報告書の一枚一枚に細かい点まで丁寧な指導があり、報告書をまとめるうえで見落としたことや、表現の不十分さに気づき、修正をしたので内容がさらにわかりやすくなりました。所長の総評で、研究員の成長した足跡が確認できたこと。教育実践の手法、方法を身につけ実践を通して肉付けして欲しい。これからが研究のスタートであるという言葉を受け、研究したことを今後の実践活動に生かしさらに研鑽を積み上げなければと思いました。

比嘉恒雄所長、上原幸得主任指導主事、宮城末義指導主事、指導講師の先生の温かさを感じながら研究できたことに心より感謝いたします。

またすばらしい研究の機会を与えて下さった関係者の皆様に心より感謝とお礼を申し上げます。



実り多い研修

—所外研修で学んだこと—

知念村立知念小学校教諭 富山 園 代

4月。新しい長袖のスーツに身を包み、緊張して門をくぐった島尻教育研究所。教育研究員全員、初対面でこれから6ヶ月間、無事に研究をやっているのか不安でした。しかし、6ヶ月たった今、慌しかったが実り多い日々であったことを実感しています。研究所では、自分の研究以外に所内研修、所外研修があり充実していました。その中で、所外での研修は普段なかなか見たり、聞いたり、体験できないことが多く、研究員全員が楽しみにしていました。

〇〇〇本社、マルチメディアセンター

〇〇〇本社では、Excelとは何か？から始まり、使い方まで丁寧に教えていただきました。インストラクターの丁寧な指導で苦手だったパソコン操作も、楽しくできるようになり、知識も深めることができました。マルチメディアセンターでは、最新のマルチメディア機器や3DシアターでのCG体験で、パソコンの作り出す世界の深さに驚嘆しました。

西崎養護学校、沖縄盲学校

両校では、発達段階や障害の程度に大きな個人差のある「一人一人を大切にした教育」の原点を見せていただき、何より子ども達の生き生きとした表情が印象的でした。

沖縄国際センター

国際センターでは、国際理解が叫ばれる今日、相手国の文化も尊重した「人造り」ということで、宗教的な面から食事等にも配慮されていることに驚きました。

児童相談所、沖縄県警

児童相談所では、親に虐待を受けている児童・生徒が多いことに愕然としました。子ども達を取り巻く環境の厳しさを突きつけられ、大人として責任の重さを感じました。沖縄県警では、我々の日々の安全がいかに守られているかということがわかりました。

沖縄海水揚水実証試験場、国頭村立奥小中学校

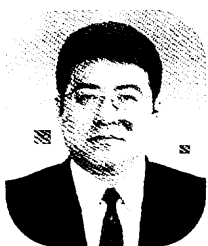
海水揚水実証試験場では、環境に配慮しており大規模な施設でした。まだ、実験の段階ではあるが、日本初の試みとしての海水揚水での電力発電に大きく期待が寄せられているそうです。奥小中学校では教頭先生から僻地校のことを学びました。恵まれた自然環境の中で、伸び伸びと育ててほしいと思いました。

琉球王国村、沖縄刑務所

琉球王国村では、参加・体験型の沖縄観光に力を入れていることがわかり、時代の変化に対応した企業努力をしている事がよくわかりました。企業が「時代を直視して先を読む」という新しい発想に学ぶことも多く、社長のロマン溢れる話も大変勉強になりました。沖縄刑務所では、受刑者の自力更正のため、行き届いた矯正教育が行われているのには頭の下がる思いでした。

この6ヶ月の中で訪問した企業、学校、施設等からはその一端を垣間見ただけだが、学校現場ではなかなか体験できない多くの収穫を得ることができました。所外研修で見聞したことを今後の実践に生かしたいと思います。

最後に、「人との出会いは時間の長さではない。付き合った密度である。」といった比嘉恒雄所長の言葉が頭をよぎります。6ヶ月と短い間ではありましたが有意義な毎日でした。この機会を与えてくださったことに感謝いたします。また、研究を深める上での確で温かい指導助言をしていただきました比嘉恒雄所長、上原幸得指導主事、宮城末義指導主事、指導講師の糸数ハツ子教頭先生、諸先生方に心から感謝申し上げます。また、苦しい時、落ち込んでいる時、支え励ましてくれた研究員の先生方に感謝します。ありがとうございました。



癒しの旅から見えること 大阪・京都・奈良

— 県外研修から —

南風原町立南星中学校教諭 儀間 盛伸

前日の研究計画検討会を無事に終えて、極度の緊張感から開放された直後の研修旅行ということもあり、たくさんの感動と研究員間の親睦を深めた有意義な研修となりました。

「体調に気をつけて、楽しく有意義な研修にしましょう」と団長の宮城末義指導主事のあいさつから始まった県外研修でした。以下は研修旅行の様子をまとめたものです。

4月24日(火)

午後3時30分にホテル到着その後、梅田駅周辺を歩きながら都会の空気に触れ、今さらながら街のにぎやかさと人の多さを実感しました。夕食を済ませて、元気な女性陣は楽しみにしていた梅田駅周辺探訪へ、明日に備えて男性陣はホテルでゆったり野球観戦。

4月25日(水)

午前9時京都駅着、すぐにジャンボタクシーにて平等院鳳凰堂 ⇒ 三十三間堂 ⇒ 龍安寺 ⇒ 京都駅着。特に平等院鳳凰堂内の壁画と仏像は歴史の重みと日本の文化に触れることができました。また平等院の中の資料館ではさらにその思いを強くしました。三十三間堂の整然と並ぶ仏像の一つ一つに違う表情を見ていると時間を忘れておだやかに気持ちになりました。午後7時30分、夕食会では、おいしい食事にもっとおいしい飲み物が、私たちの心をさらに開放的にしました。幼小中の先生の思いや願い、結婚の話、家族のこと、これからの研修への不安な気持ちなど話している中で研究員一人一人の優しい人間性にふれることができた素敵な時間でした。

4月26日(木)

午前9時奈良駅着、その後、薬師寺にて平山郁夫画伯の大唐西域壁画展の鑑賞、中国の大砂漠地帯から西アジアに至る地域を描いた壁画は、迫力があり強さや柔らかさ、いろいろな思いをさせてくれました。午後1時ボタン祭り開催中の長谷寺へ、山の中にある古いお寺でたくさんのきれいな花が咲き乱れる様はこの研修旅行でも印象に残る地となりました。午後5時30分甲子園球場、巨人・阪神戦を観戦、阪神ファンの熱狂的な応援に感激した私たちは、試合終了まで阪神ファンを演じきりました。

4月27日(金)

午後11時難波駅着、難波グランド花月にて演芸を見ました。テレビでみる漫才師のテンポのよさと徹底したサービス精神は、観客に大きな笑いを与えてくれました。学校現場にも通じるところがあると思いました。楽しかった研修旅行もいよいよ終わりです。午後7時40分那覇空港着、無事に研修旅行を終えることができました。

最後になりますが、比嘉恒雄所長はじめ、上原幸得主任指導主事、宮城末義指導主事にはこれまでの研究に対するご指導や教師の姿勢について研修を通していろいろと学ぶことができたと思います。指導講師として忙しい中、研究の指導をしていただいた大里中学校教頭の安谷屋守松先生、快く研修に送っていただきました南星中学校の仲里誠徳校長、研修をいろいろな形で支えていただいた南部広域行政組合の皆様、心より感謝申し上げます。学校に戻りましたら、今回の研究を通して得た成果を授業で実践し、継続して研鑽を積み重ねていきたいと思っています。



島尻教育研究所の一日

知念村立知念中学校教諭 新 崎 順 明

島尻教育研究所に入所が決まり、「これから半年間、ネクタイ着用で頑張るぞ」という気持ちをもって4月2日の初出勤の日に望みました。そこで、比嘉恒雄所長、上原幸得・宮城末義両指導主事のお話を聞き、「初心にかえる」ということを考えました。

島尻教育研究所の勤務時間は8時15分から17時15分までです。私の場合、新採のころ、先輩に言われた「新採の間は、朝は一番に来なさい」という言葉を思い出し、教師一年目の気持ちに戻って、朝は7時40分くらいに出勤しました。それから、お茶とコーヒーの準備をしました。コーヒータイムの後、8時15分から8時30分まで全員で室内と室外に分かれて清掃です。室内の時はよいのですが、室外の時は暑くてたいへんです。でも、研修の精神で「何事にも頑張る」ということで、すぐ慣れました。それが終わると8時30分から9時まで、比嘉所長、上原・宮城両指導主事、研究員でミーティングです。その中で、月曜日は比嘉所長の琉球の歴史の講話があり、沖縄の偉人や出来事について考えるよい機会となり、とても勉強になりました。水曜日は、外山滋比古氏の著書『学校で出来ること出来ないこと』の中から、研究員が一つの問題を選定し、それをもとに、教育の在り方、将来の教育など様々な事について意見を述べ合いました。金曜日は、それぞれの研究員による3分間スピーチで、幼稚園、小学校、中学校の先生様の様々な体験に基づく、個性あふれる話を聞くことが出来、とても参考になりました。ミーティングの中での講話やお話は、話すことが苦手の私にとってとても参考になり、話し方の何かを学んだ気がします。話の内容についても私が経験してない多くの話を聞き、感謝しております。

また、月に一回ずつ上原・宮城両指導主事からの講話がそれぞれあります。講話の内容は法規の話、コンピューターエクセル、パワーポイントの技術、総合的な学習、論文の書き方などがありました。自分が知らないことを講話していただき、学校現場に復帰したら生かしていきたいと思います。

所外研修では株式会社オーシーシー、沖縄県警察本部、南都ワールド株式会社「玉泉洞王国村」、中央児童相談所、奥小中学校、沖縄海水揚水実証試験場、沖縄刑務所など、6回の研修がありました。そこでは、その職業の役割はもちろんのこと、企業の厳しさや、先見的に物事を考える大切さなどを学びました。

毎週金曜日の13時から14時までクラブの時間があり、上原主任指導主事の指導で三線を練習しました。時には厳しく、時には優しく指導して下さったおかげで、全員がとても上手になりました。

講話や所内、所外研修などがない普段の日は、ミーティング終了後の9時から12時まで自主研究、12時から13時まで食事、13時から17時15分まで自主研究です。自主研究のときは、お互いの分野を越えて助け合い、比嘉所長、上原・宮城両指導主事には、適切な指導助言をいただきました。

研究をまとめるにあたって、指導講師の先生をはじめ多くの方々の指導助言、協力があり感謝申し上げます。半年間、いろいろとお世話になりどうもありがとうございました。これからもよろしくお願い申し上げます。

平成13年度 幼稚園教頭・主任等宿泊研修会実施要領

島尻教育研究所

1 趣 旨

- (1) 地方分権、教育改革の流れの中で、広域型の島尻教育研究所の研修活動の充実強化を図る。
- (2) 研修を深めることにより、幼稚園教頭・主任としての指導力、リーダーシップの向上に寄与する。
- (3) 島尻管内の幼稚園の教頭・主任が新しい時代に応じた、幼児一人一人の可能性を引き出し、育て、伸ばす教師の実践的指導力を高める研修の推進を図る。
- (4) 教育の変革期における幼稚園教育の課題やニーズ等について掌握し、その具体策について討議を深める中で管内幼稚園の充実強化を図る。
- (5) 宿泊をともにすることで、各教頭（主任）間の絆を深め、今後の各市町村の幼稚園教育のネットワークを構築し、島尻の幼稚園教育の充実発展に寄与する。

- | | |
|-------|------------------------|
| 2 主 催 | 南部広域行政組合島尻教育研究所 |
| 後 援 | 島尻市町村教育長会、島尻地区公立幼稚園教頭会 |

- | | |
|-------|----------------------|
| 3 期 日 | 平成13年8月23日（木）～24日（金） |
|-------|----------------------|

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 4 場 所 | 沖縄ハイツ 宜野湾市真志喜3-28-1 (TEL898-1212) |
|-------|-----------------------------------|

- | | |
|-------|----------------|
| 5 対 象 | 島尻管内の幼稚園教頭・主任等 |
|-------|----------------|

6 宿泊研修テーマ

時代の変化に対応した幼稚園教育に向けて
－園内研修の充実－

7 旅 費

- (1) 各教頭、主任等の研修旅費については市町村教育委員会負担とする。
- (2) 各派遣指導主事の研修旅費については市町村教育委員会負担とする。

8 準備すべきレポート

(1) レポートの課題

課題1 教頭として、園内研修を充実させるためにどのように運営していけばよいのか。現状と課題を踏まえて、今後の園内研修の充実のために貴園の対応策をまとめてください。

課題2 教頭として、幼稚園における子育て支援（子育て相談、子育て講座、子育て情報の提供、未就園児の親子登園、高齢者等との交流、子育てトーク及び保護者間の交流、預かり保育等）をどのように進めていけばよいのか。貴園の特色ある取り組みをまとめ、今後、子育て支援をどのように進めていこうと考えているのかまとめてください。

(2) レポートの作成様式

☆1 ページ

--

幼稚園番号

幼稚園名	氏 名	園長印

I 教頭として、園内研修を充実させるためにどのように運営していけばよいのか。現状と課題を踏まえて、今後の園内研修の充実のために貴園の対応策をまとめてください。

- (1) 現状
- (2) 課題
- (3) 対応策

☆2 ページ

II 教頭として、子育て支援をどのように進めていけばよいのか。貴園の特色ある取り組みをまとめ、今後、子育て支援をどのようにして進めていこうと考えているのかまとめてください。

- (1) 子育て支援の特色ある取り組み（1～2例）
- (2) 充実に向けての対応策

(3) レポートのまとめ方

- ① 課題1、2について、A4用紙（縦置き、横書き）2ページにまとめること。表紙はなし、1ページの上部に幼稚園番号、幼稚園名、氏名を記入、園長印もお願いします。
- ② 印刷2枚にし、左とじができるようにパンチで穴をあけること。
- ③ 60部印刷し、当日持参する。なお、その他の資料を必要とする場合は当該分科会人数分の資料を準備して各自で配布する。
- ④ 番号は、次の通りとする。

【幼稚園】

上 田 (1)	長 嶺 (2)	座 安 (3)	豊見城 (4)	伊良波 (5)	とよみ (6)
兼 城 (7)	糸 満 (8)	糸満南 (9)	高 嶺 (10)	真 壁 (11)	喜屋武 (12)
米 須 (13)	西 崎 (14)	潮 平 (15)	光 洋 (16)	東風平 (17)	白 川 (18)
新 城 (19)	具志頭 (20)	船 越 (21)	玉 城 (22)	百 名 (23)	知 念 (24)
佐 敷 (25)	与那原 (26)	与那原東 (27)	大里北 (28)	大里南 (29)	南風原 (30)
津嘉山 (31)	北 丘 (32)	翔 南 (33)	渡嘉敷 (34)	座間味 (35)	粟 国 (36)
渡名喜 (37)					

9 研修会日程

(1) 1日目〔8月23日〔木〕〕

時 間	事 項	内 容	備 考
8 : 15 8 : 20	集 合 諸 準 備	会場準備 諸表示（受付，全体会・分科会会場）	島尻教育研究所， 市町村教育委員会 派遣指導主事
8 : 30	運営委員会 (20分) 分科会運営 委員会 (10分)	1 はじめのことば……………司会（1分） 2 所長あいさつ……………所長（3分） 3 分科会の進行について……………上原（8分） 4 運営要領説明及び諸連絡……………宮城（7分） * 各分科会ごとに分かれて役員打合せ（10分）	全体会場 司会（運天） 各班の司会・記 録・指導助言等
9 : 00	受付 (20分)	1 出欠確認，参加費徴収，領収証発行 2 要項，資料配布 3 課題レポート受付	荷川取，栄野元， 伊川，敏一，勲 糸数，徳門，光定 渡名喜，嵩原，亀川
9 : 20	開講式 (30分)	1 開会のことば……………司会 2 南部広域行政組合教育委員会教育長あいさつ 3 所長あいさつ……………所長 4 日程の説明と諸連絡……………担当（宮城） 5 閉会のことば……………司会	全体会場 司会（上原）
9 : 50	講 話 (50分)	「沖縄県幼稚園教育の充実に向けて」 県教育庁義務教育課 比嘉美也子	司会（上原）
10 : 40	資料配布 (20分)	資 料 交 換 ・ 会 場 移 動	南海の間
11 : 00	分 科 会 1 (60分)	【役員紹介】 1 司会，記録，指導助言者の紹介（運営委員で） 2 自己紹介してから報告 【研究討議】（課題1） 「教頭として，園内研修をどのように充実させるか。」 ○ 提出資料をもとに，各園の園内研修の現状と課 題を発表する。	分科会会場 1 班（南海の間） 2 班（会議室A） 3 班（会議室B） 4 班（研修室B） 5 班（研修室C）
12 : 00	昼 食	昼 食 ・ 休 憩	1階レストラン

時 間	事 項	内 容	備 考
13:00	分科会 2 (120分)	【研究協議】課題の1の続き ○ 発表を受けて、今後の園内研修の充実に向けて、 教頭としてどのように取り組むべきか協議する。	
15:00	休 憩	休 憩	コーヒータイム
15:15	分科会 3 (105分)	【研究協議】課題1の続き ○ 協議題を1, 2題にしぼって協議を深める。 ○ 課題1のまとめをする。 ○ 指導助言を受ける。	
17:00	入 室	入 室 ・ 休 憩	
17:30 20:00	夕 食 懇 談 会	1 開会のことば 2 所長あいさつ 3 教頭会会長あいさつ 4 乾杯（園長会会長） 5 食 事 6 懇 談 7 閉会のことば	全体会場（多目的 ホール）：立食 運営（教頭会）
20:30		入室，入浴 自由懇談，就寝	

(2) 2日目〔8月24日〔金〕〕

時 間	事 項	内 容	備 考
7:30	朝 食 諸 準 備	朝食・諸準備 荷物をまとめ部屋から移動準備	1階レストラン
8:30	運営委員会 (20分)	1 はじめのことば……………司会（1分） 2 各班の報告……………各班の運営委員（各班2分以内） 3 日程確認・諸連絡……………宮城（5分） 4 おわりのことば……………司会（1分）	全体会場（多目的 ホール） 司会（運天） 記録，指導助言者， 運営委員
8:50	移 動	各自荷物を持って分科会会場へ移動 部屋での飲み物等は各自で精算 各部屋のカギをフロントへ返却	

時 間	事 項	内 容	備 考
9 : 00	分 科 会 4 (90分)	【研究協議】課題2 「教頭として、幼稚園における子育て支援をどのように進めるか。」 ○ 提出資料をもとに、各園の子育て支援の取り組み状況を発表する。	
10 : 30	休 憩	休憩（コーヒータイム）	コーヒー
10 : 45	分 科 会 5 (75分)	【研究協議】課題2 ○ 発表を受けて、今後の子育て支援の取り組みについて話し合う。 ○ 課題2をまとめる。 ○ 指導助言を受ける。	
12 : 00	昼 食	昼 食 ・ 休 憩	1階レストラン
13 : 30	講 演 (90分)	「これからの幼稚園に求められること」 沖縄女子短期大学教授：鎌田佐多子 謝辞 幼稚園教頭会会長： 西澤 明美	全体会場（多目的ホール） 司会（上原）
15 : 00	休 憩	休 憩（コーヒータイム）	
16 : 20	閉 講 式 (25分)	1 開会のことば……………司会（1分） 2 講 評……………上原（10分） 3 所長あいさつ……………所長（10分） 4 事 務 連 絡……………担当（3分） 5 閉会のことば……………司会（1分）	司会（宮城）
15 : 45	かたづけ 反 省 会	かたづけ・反省会	全体会場 司会（運天） 全指導主事

10 分科会班編成表

1 班

No.	氏 名	園 名
1	外 間 廣 子	上田幼
2	大 城 洋 子	とよみ幼
3	仲 本 多恵子	兼城幼
4	島 袋 栄 子	糸満幼
5	神 谷 安 江	東風平幼
6	仲 里 竹 子	津嘉山幼
7	照 屋 信 子	与那原幼
8	中 村 友 江	渡名喜幼

司 会：島 袋 栄 子
 記 録：外 間 廣 子
 運営委員：嵩 原 克 之
 栄野元 康 一
 亀 川 盛 敏
 指導助言：宮 城 久 子

2 班

No.	氏 名	園 名
1	与那嶺 栄 子	長嶺幼
2	玉 城 紀代子	糸満南幼
3	屋比久 トシ子	高嶺幼
4	城 間 由美子	新城幼
5	金 城 恵 子	白川幼
6	高 良 則 子	翔南幼
7	仲村渠 裕美子	百名幼
8	新 城 常 子	栗国幼

司 会：金 城 恵 子
 記 録：与那嶺 栄 子
 運営委員：荷川取 幸 代
 徳 門 正 芳
 指導助言：町 田 妙 子

3 班

No.	氏 名	園 名
1	名嘉元 美佐子	座安幼
2	又 吉 ノリ子	真壁幼
3	登 紀 美	西崎幼
4	大 城 美恵子	大里南幼
5	翁 長 麗 子	南風原幼
6	玉 城 美慧子	佐敷幼
7	岩 見 美 香	座間味幼
8		

司 会：名嘉元 美佐子
 記 録：又 吉 ノリ子
 運営委員：上 原 敏 一
 金 城 勲
 指導助言：上 原 須美子

4 班

No.	氏 名	園 名
1	新 垣 一 美	豊見城幼
2	里 秋 美	米須幼
3	西 澤 明 美	潮平幼
4	内 村 千恵子	具志頭幼
5	中 村 圭 子	玉城幼
6	赤 嶺 律 子	北丘幼
7	新 垣 光 枝	渡嘉敷幼

司 会：西 澤 明 美
 記 録：赤 嶺 律 子
 運営委員：渡名喜 庸 清
 糸 数 洋
 指導助言：名 嘉 萬里子

5 班

No.	氏 名	園 名
1	大 城 セツ子	伊良波幼
2	崎 山 千鶴子	喜屋武幼
3	大 城 幸 子	光洋幼
4	新 垣 津也子	大里北幼
5	奥 原 利美子	船越幼
6	名 嘉 峯 子	与那原東幼
7	新 垣 初 子	知念幼

司 会：名 嘉 峯 子
 記 録：崎 山 千鶴子
 運営委員：伊 川 治 美
 金 城 光 定
 指導助言：砂 辺 律 子

園内研究のすすめ方

はじめに

幼児教育のあるべき教育の方向については、さまざまな議論があるがその方向を誤らないためには、現場の教育実践に支えられた園内研究が的確な方法で行われることが必要である。また、この園内研究は幼児教育の内容を充実させるためにも必要なことである。

1 園内研究の意義

幼稚園教育は教育基本法、学校教育法および同法施行規則、幼稚園教育要領等、幼児の発達の特性や地域の違いによる一定の制約があるが、教師の自主的な創意工夫や積極的な研究・研修による成果が生かされる面が非常に大きいといえる。また、最近のように社会環境の変貌が著しく、しかもテレビを中心としたマスコミ等の影響の中で生活している幼児達は、日々成長しているだけではなく、ときには発達がゆがめられていくことも考えられる。そこで、教師は常に留まることのない明日への飛躍をもつ教育を考えながら、幼児の実態をとらえ、教育目標を修正し、指導法を改善していかなければならないといえる。この新しい教育の方向を生み出すのは、教育活動の一環としての教師の自主的な研究・研修の積み重ね以外にない。つまり、研究ということは、教師に課せられた一つの使命といえる。

このように幼稚園における園内研究というものを、教育活動の一環としてとらえると、望ましい研究のあり方がおのずから規定されてくる。つまり、基本的には教師個人の自主的な自己研究が中心で、それらが全体的に発展したものが共同研究であるというたてまえになる。そこで、取り上げられる研究の性格は、

*教育効果をよりいっそう高めるもの

*教師の資質の向上をはかるもの

*正しい姿で幼児たちに反映されていくもの

2 園内研究の問題点

(1) 研究主題のとらえ方

「こんなことがわかればいいなあ」といった漠然とした興味に基づいて主題が決定されているのでは？ → 研究主題の内容について十分検討されることなく、曖昧な理解のままに研究が進められていることになる。

(2) 実態調査のあり方

園内研究のまとめた報告書を見て気がつくことは、必ずといってよいほど実態調査の結果がのせられているが何か実態調査をしないと研究ではないかのように考えて実施しているように受け止められる。それは実態調査の結果が研究の全体計画の中にどのように位置付いているのか。またその結果が研究を進めていくためにどのように生かされているのかがわからない。

(3) 指導記録のあり方

指導法に関連する園内研究の報告書を見ると、必ず指導事例がのせられている。しかし、それは単なる指導記録であることが多く、指導法の研究をまとめたことにはなっていないことに気づく。指導過程における幼児の反応を見ると、実際には様々な反応があったのに教師にとって好ましい反応の記録しかのせていないことが多い。

教師の導入部分の刺激提示がその後の幼児の活動にどのような影響を与えるかを考察することが、指導法についての一つの研究課題である。その場合、全部の幼児について追うことはできないので、教師の刺激提示に対する代表的なタイプの幼児について、その活動の仕方をとらえる必要がある。

園内研究では、指導法に関連した研究がその大部分を占めている。しかし、単に指導案とその反省や、その指導についての協議内容をまとめている研究が多く、このように指導しましたという記録になっているということである。

(4) 園内研究発表のあり方

園内研究は、本来、幼稚園のもつ課題の解決や教師の指導力の向上などを目的として行なわれる。研究発表会を保育の公開とともに行なうことがあるが、そのような場合、研究の成果は保育の中に示されなければならない。しかし、多くの場合、研究収録や研究発表の内容を立派にすることにエネルギーを使い、大切な保育がなおざりになっている。これでは、何のための園内研究なのかわらなくなる。日々の保育に悩んでいる教師は公開された保育の中に納得できるものがなければ、その研究に対して不信感を抱くだけである。

そこで、園内研究の成果は、保育の中で発表するのだという心意気で、園内研究を進めることが大事である。

3 園内研究の組織と協力体制

特定の教師をリーダー格にした共同研究の体制を組織して研究を進めるための留意事項

- (1) 研究会の運営企画は、幼稚園全体の教育活動の中に位置付け、無理のない計画とその手順を考えておく。
- (2) 研究組織を作るにあたっては、個人の教師の年齢を考慮したうえで、その特性を生かし、全員が好ましい人間関係を高めるように配慮する。
- (3) 研究主題に対する共通理解の徹底を図るとともに、その研究方法を十分検討し、的確な研究方法を確立すること。
- (4) 研究過程で収集されてくる資料は、できるだけ月ごとにまとめ、それが次の指導に生かされるように配慮することが、研究意欲を高めることになることを忘れないこと。
- (5) 研究の過程でおこる個人の不満や悩みをできるだけ早く察知し、それをよく聞いてあげるようにすること。また研究会などでの個人の意見を抑えつけないで、まずよく聞いてあげるように努めること。

4 園内研究における教頭（主任）の役割

個人研究を中心とした共同研究にしても、特定の教師を中心にした協力体制による共同研究にしても、その研究推進の運営面で実質的に中心になるのは、幼稚園の教頭ないし主任ということになる。園長の了解をとりながら、研究主題を職員の意向を汲み取って決定したり、研究方法を立案したり、研究

会を計画したりするなどの役割を担うことになる。研究が進んでいく過程で、各教師の研究上の悩みや不満を事前に察知してその相談にのることも大切である。また、各教師の研究のすすみぐあいをチェックしたり、それぞれの結果を関連付けしたり、統合したりする仕事もやっていかなければならない。

特に教頭（主任）は研究主題の設定にあたって、主導的な役割を果たさなければならない。園内研究は、幼稚園の実態から問題点を掘り起こし、その中から特に問題となるものを精選し、それを解決することによって教育目標への到達を容易にするという役割をもっていることから、その研究主題は次のような観点から選定することが大切である。

(1) 昨年度の教育課程実施のうえでの問題となったもの

(2) その年度の指導の重点に関連したもの

(3) 教師のもつ問題意識の中で、共通点の見出されるもの

(4) 教師の指導技術を向上させるもの

5 研究の手順

園内研究というものは、その幼稚園が直面している課題を解決しようとする意識からはじまる。もちろん、教師各個人のもつ興味や悩みが集約されてきて、それが園内の課題に発展することもあるが、教育委員会などから与えられる場合もある。しかし、研究に対する課題意識は次の2つに大別される。

探 索 型	仮 説 検 証 型
① 課題意識を明確にすることによって、研究主題を決める。 ② 研究主題を構造化し、その共通理解をはかる。 ③ 研究のねらいに即した研究計画を立案する。 ④ 研究をすすめる。 ⑤ 研究の結果をまとめる。 ⑥ 研究結果を検討し、 <u>その結果を読みとりながら、事実の一般化をはかる。</u> ⑦ <u>問題の住所を明らかにするとともに、今後の研究課題を提案する。</u>	① 研究主題を決め、それに関連する文献調査をする。 ② 仮説を設定し、その共通理解をはかる。 ③ 仮説を検証する方法を立案する。 ④ 研究をすすめる。 ⑤ 研究の結果をまとめる。 ⑥ 研究結果を検討し、仮説が支持されたかどうかの結論をくだす。 ⑦ 仮説が否定されたときは、その問題点を明らかにし、今後の研究課題を提案する。

《参考・引用文献》

西久保礼造著『幼児教育のための園内研究のすすめ方』（改訂版）ぎょうせい 平成7年

島尻教育研究所逍遙歌



島尻教育研究所逍遙歌

作詞 宮城恒彦
 作曲 親泊明美

一 報得の流れゆるやかに
 朝陽に映ゆるまゐの原
 指導の道を究めんと
 集いしわれら意気高し

ニ 辿る道程 厳しけれど
 友の情に 涙しと
 明日に灯ともさんと
 語る仲間の 声やさし

三 遙かに望む 八重瀬岳
 うつろふ雲は 綾なして
 ゆぐらへ急ぐ 群れ鳥に
 光ほのかな 宵の星

一九九二年五月十三日